

90歳男性。高度の認知症(病型不詳)で施設入所中。

食欲不振、傾眠が出現し、X年11月に入院した。経口摂取を試みるが誤嚥性肺炎を発症し、絶食にて中心静脈栄養を受けていた。入院後も食べようとする意欲なく、何とか口腔内に食事を入れても十分嚥下できなかった。家族と相談し、中心静脈ラインの再留置、胃瘻や経鼻経管栄養は行わないことになり、入院後1か月で永眠された。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	るいそう	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	数か月
	(イ) (ア)の原因	認知症		数年
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日
	手術 ① 有 2有			
解剖	主要所見			
	解剖 ① 有 2有			
死因の種類	① 死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		
手段及び状況	手段及び状況			
	① 有 2有			

死亡の原因	(ア) 直接死因	摂食機能障害	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1か月
	(イ) (ア)の原因	認知症		不詳
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日
	手術 ① 有 2有			
解剖	主要所見			
	解剖 ① 有 2有			
死因の種類	① 死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		
手段及び状況	手段及び状況			
	① 有 2有			

		施設の名 称				
(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに病歴の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆3欄では、最も死亡に影響を与えた病病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆4欄の病病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア) 直接死因	るいそう	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	数か月	
		(イ) (ア)の原因	摂食障害		数年	
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)		
		(エ) (ウ)の原因				
		目	直接には死因に関連しないが1欄の病病名に影響を及ぼした病病名等			
手術	① 有 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 昭和 年 月 日	
	② 有 2有	主要所見				
(15)	死因の種類	① 死及び自然死				→「2」から「5」まで表
		不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 } 外因死 { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		市区町村	
		手段及び状況				→「6」を「施設」

90歳男性。高度の認知症(病型不詳)で施設入所中。

食欲不振、傾眠が出現し、X年11月に入院した。経口摂取を試みるが誤嚥性肺炎を発症し、絶食にて中心静脈栄養を受けていた。入院後も食べようとする意欲なく、何とか口腔内に食事を入れても十分嚥下できなかった。家族と相談し、中心静脈ラインの再留置、胃瘻や経鼻経管栄養は行わないことになり、入院後1か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

このようなタイプの摂食障害は高齢者の終末期にしばしば遭遇するが、これまで摂食障害は年齢に関係なく、F50精神障害と分類されることが多かった。平成28年12月14日に開催された第6回死因選択検討ワーキンググループでの検討で、死亡診断書に「摂食障害」と記載されている場合、死亡時年齢が50歳未満の事例は「F50.9摂食障害、詳細不明」に分類する。死亡時年齢が50歳以上で、死亡診断書に「精神及び行動の障害」であることが類推される記載がない場合は「R63.8食物及び水分摂取に関するその他の症状及び徴候」に分類する。また、「F50.9摂食障害、詳細不明」とともに食物摂取の障害を引き起こす病態が記載された場合は、その病態を原死因として選択する。という改訂案が示された。今後より病態に即した分類になるものと思われる。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	るいそう	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	数か月
	(イ) (ア)の原因	認知症		数年
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
死因の種類	1	部位及び主要所見	手前年月日	平成 昭和 年 月 日
	2	主要所見		
外因死の追加事項	1	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	都道府県
	2	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市区町村

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	摂食機能障害	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1か月
	(イ) (ア)の原因	認知症		不詳
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
死因の種類	1	部位及び主要所見	手前年月日	平成 昭和 年 月 日
	2	主要所見		
外因死の追加事項	1	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	都道府県
	2	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市区町村

正解

施設の名義			
死亡の原因	(ア) 直接死因	るいそう	数か月
	(イ) (ア) の原因	摂食障害	数年
	(ウ) (イ) の原因		
	(エ) (ウ) の原因		
手	① 2有	部位及び主要所見	平成 年 月 日
	② 2有	主要所見	昭和 年 月 日
死因の種類	① 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種類 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 () 傷害が発生したところ 市 区 町 村 手段及び状況	都道府県 市区町村

疾病(発症)又は受傷から死亡までの期間

◆年、月、日等の単位で書いてください
ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください
(例：1年3か月、5時間20分)

◆1欄では、最も死亡に影響を与えた原因を医学的因果関係の順番で書いてください

◆1欄の箇条書きの記載は各欄一つにしてください

ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください

① 病死及び自然死

② 外因死

③ 自殺

④ 他殺

⑤ その他及び不詳の外因死

⑥ 不詳の死

⑦ 住居

⑧ 工場及び建築現場

⑨ 道路

⑩ その他

⑪ 市

⑫ 区

⑬ 町

⑭ 村

Q9.

84歳 女性。X年12月11日午前6時10分頃、新聞を取りに行った際、転倒し胸部を強打する。痛みが強く、動けないでいるところを家人に発見され、救急搬送される。
 初診時所見：多発肋骨骨折、両側血胸、脾損傷による出血性ショック(血圧64/44mmHg)で、胸腔ドレナージ、輸液・輸血療法、インターベンショナルラジオロジーによる止血にて循環動態の安定化を図る。
 既往歴：サルコイドーシス(プレドニゾン17.5mg処方)、慢性腎臓病、腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄。
 ICU管理となるが、循環動態が安定せず、12月16日心タンポナーデ合併、ドレナージ等の処置を行うも、大動脈弁狭窄による循環異常の管理が困難となり、12月19日、死亡した。

14	死亡の原因	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)	9日
		(エ) (ウ)の原因			
		(オ) (エ)の原因			
15	死因の種類	1 病死及び自然死			
		2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火端による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死			
16	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
		傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()		
17	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	1 単胎 2 多胎(子中第 子)
		経産・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日	平成 昭和 年 月 日
18	その他特に行うべきことから	経産・分娩時における母体の病態又は異状		前回までの妊娠の結果	出生児 死産児 人胎 (妊娠週22週以後に限る)
		1 無 2 有			

14	死亡の原因	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)	9日
		(エ) (ウ)の原因			
		(オ) (エ)の原因			
15	死因の種類	1 病死及び自然死			
		2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火端による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死			
16	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X年 12月 11日 午前 午後 6時 10分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
		傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()		
17	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	1 単胎 2 多胎(子中第 子)
		経産・分娩時における母体の病態又は異状		母の生年月日	平成 昭和 年 月 日
18	その他特に行うべきことから	経産・分娩時における母体の病態又は異状		前回までの妊娠の結果	出生児 死産児 人胎 (妊娠週22週以後に限る)
		1 無 2 有			

新聞を取りに行った際に転倒し、動けないでいるところを家人に発見されたという。

外傷後の全身管理で大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したものを。

問題文

84歳 女性。X年12月11日午前6時10分頃、新聞を取りに行った際、転倒し胸部を強打する。痛みが強く、動けないでいるところを家人に発見され、救急搬送される。初診時所見：多発肋骨骨折、両側血胸、脾損傷による出血性ショック(血圧64/44mmHg)で、胸腔ドレナージ、輸液・輸血療法、インターベンショナルラジオロジーによる止血にて循環動態の安定化を図る。既往歴：サルコイドーシス(プレドニゾン17.5mg処方)、慢性腎臓病、腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄。ICU管理となるが、循環動態が安定せず、12月16日心タンポナーデ合併、ドレナージ等の処置を行うも、大動脈弁狭窄による循環異常の管理が困難となり、12月19日、死亡した。

解説

多発肋骨骨折より出血性ショックとなり、集中治療管理を行うも既往歴の複合的要素、特に大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したものと解釈されます。I欄には「損傷の性質」をルールどおり記載していますが、その原因は外因であるため、「死因の種類」を疾病とすると矛盾が生じます。転倒する原因に既往歴が関与しているわけではないので外因の「3転倒・転落」を選択するのが適切です。循環管理に難渋した要因として、脾損傷も考えられる場合は、II欄にも併せて記載することもあります。

選択肢

1

死亡の原因	(ア)直接死因	心タンポナーデ	3日
	(イ)(ア)の原因	左血胸	9日
	(ウ)(イ)の原因	左多発肋骨骨折	9日
	(エ)(ウ)の原因		
II		大動脈弁狭窄症	約2年
手術	部位及び主要所見		平成 年 月 日
	手術	2有	昭和 年 月 日
解剖	部位及び主要所見		
	解剖	2有	
死因の種類	1病死及び自然死		
	2不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他	市区町村
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	胎数
	胎数	1単胎 2多胎 (子中胎 子)	胎数
その他特記すべきことから	胎数	1無 2有	胎数
	胎数	3不詳	胎数

2

死亡の原因	(ア)直接死因	心タンポナーデ	3日
	(イ)(ア)の原因	左血胸	9日
	(ウ)(イ)の原因	左多発肋骨骨折	9日
	(エ)(ウ)の原因		
II		大動脈弁狭窄症 脾損傷	約2年 9日
手術	部位及び主要所見		平成 年 月 日
	手術	2有	昭和 年 月 日
解剖	部位及び主要所見		
	解剖	2有	
死因の種類	1病死及び自然死		
	2不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 X年 12月 11日 午前 6時 10分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他	市区町村
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	胎数
	胎数	1単胎 2多胎 (子中胎 子)	胎数
その他特記すべきことから	胎数	1無 2有	胎数
	胎数	3不詳	胎数

新聞を取りに行った際に転倒し、動けないでいるところを家人に発見されたという。

正解

Q10.

40歳 女性。X年9月20日、路上で倒れている所を発見され、救急要請された。救急隊到着時心肺停止状態であり、心肺蘇生をしつつ、病院搬送となった。

初診時所見：二次救命処置で心拍再開となり、循環が安定する。搬送後の頭部CT検査にてくも膜下出血を認め、意識障害・心停止の原因と判断された。ICU管理となるも、9月24日 12:12に脳死とされうる状態となり、家人より臓器提供の申し出があった。

9月25日 18:33 第1回脳死判定により脳死と判断された。

9月26日 9:12 第2回脳死判定により脳死と判断された。

9月27日 5:33-8:34 臓器摘出が行われた。

死亡したとき 平成X年9月26日 午前9時12分

施設の名前					
死亡の原因	(ア) 直接死因	くも膜下出血		6日	
	(イ) (ア)の原因			発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	
	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本簿の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因				
◆1層目では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆2層目では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆3層目の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ	部位及び主要所見		手術年月日 平成 年 月 日	
	Ⅱ	主要所見		手術 ① 2有	
死因の種類	① 病死及び自然死		不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	外因死の追加事項		傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところ 都道府県市区町村 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100)		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください	出生時体重		単胎・多胎の別		妊娠週数
	グラム		1単胎 2多胎 (子)		週
生後1年未満で病死した場合の追加事項	1無 2有		3不詳		前回までの妊娠の結果 出生児 死産児 (妊娠週22週以後に限る)
	母の生年月日		平成 年 月 日		人胎
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください					
その他特記すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。					

死亡したとき 平成X年9月25日 午後6時33分

施設の名前					
死亡の原因	(ア) 直接死因	心肺停止		5日	
	(イ) (ア)の原因	くも膜下出血		5日	
	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本簿の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因				
◆1層目では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆2層目では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆3層目の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ	部位及び主要所見		手術年月日 平成 年 月 日	
	Ⅱ	主要所見		手術 ① 2有	
死因の種類	① 病死及び自然死		不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	外因死の追加事項		傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところ 都道府県市区町村 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13) 14) 15) 16) 17) 18) 19) 20) 21) 22) 23) 24) 25) 26) 27) 28) 29) 30) 31) 32) 33) 34) 35) 36) 37) 38) 39) 40) 41) 42) 43) 44) 45) 46) 47) 48) 49) 50) 51) 52) 53) 54) 55) 56) 57) 58) 59) 60) 61) 62) 63) 64) 65) 66) 67) 68) 69) 70) 71) 72) 73) 74) 75) 76) 77) 78) 79) 80) 81) 82) 83) 84) 85) 86) 87) 88) 89) 90) 91) 92) 93) 94) 95) 96) 97) 98) 99) 100)		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください	出生時体重		単胎・多胎の別		妊娠週数
	グラム		1単胎 2多胎 (子)		週
生後1年未満で病死した場合の追加事項	1無 2有		3不詳		前回までの妊娠の結果 出生児 死産児 (妊娠週22週以後に限る)
	母の生年月日		平成 年 月 日		人胎
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください					
その他特記すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。					

40歳 女性。X年9月20日、路上で倒れている所を発見され、救急要請された。救急隊到着時心肺停止状態であり、心肺蘇生をしつつ、病院搬送となった。初診時所見：二次救命処置で心拍再開となり、循環が安定する。搬送後の頭部CT検査にてくも膜下出血を認め、意識障害・心停止の原因と判断された。ICU管理となるも、9月24日 12:12に脳死とされうる状態となり、家人より臓器提供の申し出があった。9月25日 18:33 第1回脳死判定により脳死と判断された。9月26日 9:12 第2回脳死判定により脳死と判断された。9月27日 5:33-8:34 臓器摘出が行われた。

解説

くも膜下出血により心肺停止、心肺蘇生に成功するも4日後に「脳死とされうる状態」となり、臓器提供に至った症例です。「臓器の移植に関する法律」の規定に基づき脳死判定を行った場合、死亡した時刻は第2回目の脳死判定終了時刻を記入するのが適切です。

選択肢

正解

1

死亡したとき 平成X年9月26日 午前9時12分

死亡の原因	(ア) 直接死因	くも膜下出血	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	6日
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(注)欄に限り医学的因果関係の観点で書いてください。	手術	① 2有 部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日
	解剖	① 2有 主要所見		
死因の種類	① 病死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害		
	② 外因死	不慮の外因死 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください。	手段及び状況			
出生時体重	グラム	1単胎 2多胎(名山胎子)	母の生年月日	前回までの妊娠の結果 出生児 胎人胎 死産児 胎人胎 (妊娠週22週以後に限る)
	1無 2有	3不詳	平成 年 月 日	
◆その他特記すべきことがら 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

2

死亡したとき 平成X年9月25日 午後6時33分

死亡の原因	(ア) 直接死因	心肺停止	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	5日
	(イ) (ア)の原因	くも膜下出血		5日
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(注)欄に限り医学的因果関係の観点で書いてください。	手術	① 2有 部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日
	解剖	① 2有 主要所見		
死因の種類	① 病死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害		
	② 外因死	不慮の外因死 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください。	手段及び状況			
出生時体重	グラム	1単胎 2多胎(名山胎子)	母の生年月日	前回までの妊娠の結果 出生児 胎人胎 死産児 胎人胎 (妊娠週22週以後に限る)
	1無 2有	3不詳	平成 年 月 日	
◆その他特記すべきことがら 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

Q11.

80歳 男性 X年11月2日、ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっていない)で発見され、救急搬送された。湯温は42度の設定になっていた。

既往歴：脳梗塞による軽度不全麻痺、認知症はあるが、ADLは自立していたとのこと。
 初診時所見：意識レベルJCS300、ショック、高体温(39.6℃)による播種性血管内凝固症候群・多臓器不全、両前腕背面、背腰部、両大腿後面にⅡ度熱傷(Ⅱs47%)があり、気管挿管による呼吸管理、輸液療法による循環管理が行われた。
 意識レベル低下の原因検索(CT検査)で、新しい脳梗塞を認めた。
 集中治療管理を行ったが、消化管出血を合併するなど出血傾向が強くなり、同日死亡した。

14	死亡の原因	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固症候群	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1日
	I	(イ) (ア)の原因	脳梗塞	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例：1年3か月、5時間20分)	約1日
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
	II	表層には死因に関係しないが1層の深部死因に影響を及ぼした傷病名等	全身熱傷		約1日
手術	① 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	① 2有	主要所見			
15	死因の種類	① 病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死			
16	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
17	出生時体重	単胎・多胎の別	グラム	1単胎 2多胎()中第()子	妊娠週数
	生後1年未満で病死した場合の追加事項	経産・分娩時における母体の傷病又は異状	母の生年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 人 (妊娠週22週以後に限る)
18	その他特に付言すべきことから	浴室内で湯につかった状態(顔面はつかっていない)で、ヘルパーに発見された。入浴中に脳梗塞が生じたものと考えられる。			

14	死亡の原因	(ア) 直接死因	脳梗塞	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1日
	I	(イ) (ア)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例：1年3か月、5時間20分)	約1日
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
	II	表層には死因に関係しないが1層の深部死因に影響を及ぼした傷病名等	過高熱、播種性血管内凝固症候群、熱傷		約1日
手術	① 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	① 2有	主要所見			
15	死因の種類	① 病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死			
16	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
17	出生時体重	単胎・多胎の別	グラム	1単胎 2多胎()中第()子	妊娠週数
	生後1年未満で病死した場合の追加事項	経産・分娩時における母体の傷病又は異状	母の生年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 人 (妊娠週22週以後に限る)
18	その他特に付言すべきことから				

		施設の名			
(14)	死亡の原因 ◆1欄目欄として もに疾患の終末期 の状態として の心不全、呼吸 不全等は書か ないでください ◆1欄では、最も も死亡に影響を 与えた病名を 医学的因果関係 の順で書いて ください ◆1欄の病名 の記載は各欄一 つにしてください ただし、欄が 不足する場合は (エ)欄に残りを 医学的因果関係 の順で書いて ください	(ア)直接死因	播種性血管内凝固症候群		
		(イ) (ア)の原因	過高熱		
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	約1日		
		◆年、月、日 等の単位で書 いてください ただし、日 未満の場合 は、時、分等 の単位で書い てください (例)1年3 か月、5時間 20分)	約1日		
		表欄には死因に 関しないが1欄の 他病名に影響を 及ぼした病名等	脳梗塞、全身熱傷		
	手術	部位及び主要所見	① 2有	手術年月日	平成 年 月 日
	解剖	主要所見	① 2有		
(15)	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 ⑧その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 不詳 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	○△ 都道府県 市区町村
		傷害が発生したところの種類	①住居 ②工場及び 建築現場 ③道路 ④その他 ()		
		◆信頼又は確定情報の場合でも書いてください 手続及び状況 ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっていない)で発見され、過高熱に伴う播種性血管内凝固症候群にて死亡したもの。脳梗塞が契機になった可能性があるが、詳細は不明。			
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
		グラム	1単胎 2多胎 (子中第)	満 週	
		妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	1無 2有 ()	3不詳	平成 年 月 日
					前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠週22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから				

問題文

80歳 男性 X年11月2日、ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっていない)で発見され、救急搬送された。湯温は42度の設定になっていた。
 既往歴:脳梗塞による軽度不全麻痺、認知症はあるが、ADLは自立していたとのこと。
 初診時所見:意識レベルJCS300、ショック、高体温(39.6℃)による播種性血管内凝固症候群・多臓器不全、両前腕背面、背腰部、両大腿後面にⅡ度熱傷(Ⅱs47%)があり、気管挿管による呼吸管理、輸液療法による循環管理が行われた。
 意識レベル低下の原因検索(CT検査)で、新しい脳梗塞を認めた。
 集中治療管理を行ったが、消化管出血を合併するなど出血傾向が強くなり、同日死亡した。

解説

浴槽内湯温の高熱暴露により過高熱、それに合併する播種性血管内凝固症候群で死亡したと判断し、外因死、不慮の事故8その他にしたものと判断します。しかし、意識障害の原因として新しい脳梗塞を診断し、それに起因した一連の病態と判断しているのであれば、I欄に脳梗塞を記載し、死因の種類を1病死とするのが適切と思われます。死亡の原因欄には損傷名等の記載があり、外因死の追加事項にも可能な限り具体的な記載が望ましいと思われます。

選択肢

正解

1	死亡の原因	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固症候群	約1日	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分
		(イ) (ア)の原因	脳梗塞	約1日	
(14)	◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態でしての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死に近著をうけた病名を医学的因果関係の観点で書いてください。 ◆1欄の病名記載は書機一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(注)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください。	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分
		(エ) (ウ)の原因			
		Ⅱ	全身熱傷	約1日	
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	母胎・多胎の別	妊娠週数	
(18)	その他特に付言すべきことがあ	浴室内で湯につかった状態(顔面はつかっていない)で、ヘルパーに発見された。入浴中に脳梗塞が生じたものと考えられる。			

正解

2	死亡の原因	(ア) 直接死因	脳梗塞	約1日	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分
		(イ) (ア)の原因			
(14)	◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態でしての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死に近著をうけた病名を医学的因果関係の観点で書いてください。 ◆1欄の病名記載は書機一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(注)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください。	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分
		(エ) (ウ)の原因			
		Ⅱ	過高熱、播種性血管内凝固症候群、熱傷	約1日	
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	母胎・多胎の別	妊娠週数	
(18)	その他特に付言すべきことがあ				

施設の名称			
死亡の原因 ◆1欄、3欄ともに疾患の種別を記載する際の注意として、心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆2欄では、最も死亡に至る原因と考えられる病名を医学的因果関係の観点で書いてください。 ◆3欄の病名は、記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に死亡を医学的因果関係の観点で書いてください。	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固症候群	約1日
	(イ) (ア)の原因	過高熱	約1日
	(ウ) (イ)の原因		
	(エ) (ウ)の原因		
	Ⅱ	脳梗塞、全身熱傷	約1日
手術	① 有 2有	部位及び主要所見	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	① 有 2有	主要所見	
死因の種類	1 病死及び自然死 9 病死 不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 12 不詳の死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死		
	外因死の追加事項 ◆1欄又は確定情報の場合でも書いてください。 手続及び状況 ヘルパーに浴室内で湯に漬かった状態(顔面は漬かっている)で発見され、過高熱に伴う播種性血管内凝固症候群にて死亡したもの。脳梗塞が契機になった可能性があるが、詳細は不明。		
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
	グラム	1 単胎 2 多胎 (子中第)	満 週
妊娠・分娩時における母体の状態又は異常		母の生年月日	前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 死産児 人胎 (妊娠週22週以後に限る)
1 無 2 有		3 不詳	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
その他特記すべき事項			

64歳 男性。X年5月5日、統合失調症にて診療所付属施設に入所していた。午後3時20分頃、柏餅を食べている際に窒息し、心肺停止となった。居合わせた職員により、咽頭内の異物除去、心肺蘇生がなされ、救急要請された。救急隊により心肺蘇生術が継続され、救急入院となった。

既往歴：30歳より統合失調症。
初診時所見：二次救命処置により心拍再開し、ICU管理となる。集中治療管理を行ったが、5月15日、死亡した。

死亡の原因	(ア) 直接死因	異物誤嚥による窒息	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	10日
	(イ) (ア)の原因	統合失調症		約30年
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄に記載した死亡の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆2欄の病名名の記載は各欄一つにししてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	手術	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死	不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害		
	外因死	6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()		
◆信頼又は確定性のある場合でも書いてください	手段及び状況	柏餅を誤嚥し、窒息したもの。		
	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
生後1年未満で病死した場合の追加事項	グラム	1 単胎 2 多胎 (子中胎 子)	満 週	
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	母の年月日	前回までの妊娠の結果	出生児 人胎 死産児 (妊娠週 22週以後に限る)
その他特に付言すべきことから				

死亡の原因	(ア) 直接死因	咽頭異物による窒息	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	10日
	(イ) (ア)の原因	統合失調症		約30年
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄に記載した死亡の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆2欄の病名名の記載は各欄一つにししてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	手術	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死	不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害		
	外因死	6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 X 年 5 月 5 日 午後 3 時 20 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他(診療所付属施設)		
◆信頼又は確定性のある場合でも書いてください	手段及び状況	柏餅を誤嚥し、窒息したもの。		
	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
生後1年未満で病死した場合の追加事項	グラム	1 単胎 2 多胎 (子中胎 子)	満 週	
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	母の年月日	前回までの妊娠の結果	出生児 人胎 死産児 (妊娠週 22週以後に限る)
その他特に付言すべきことから				

施設の名前	
死亡の原因 ◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の病名名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に死因を医学的因果関係の順番で書いてください。	(ア)直接死因 蘇生後脳症(または低酸素脳症) 約10日
	(イ)(ア)の原因 窒息 約10日
	(ウ)(イ)の原因 咽頭異物 約10日
	(エ)(ウ)の原因 統合失調症 約30年
	手術 ①有 2有 部位及び主要所見 手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖 ①有 2有 主要所見	
死因の種類 1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 その他及び不詳の外因死 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死	
外因死の追加事項 ◆伝染又は確定性のある場合でも書いてください。 傷害が発生した時刻 平成 昭和 X年 5月 5日 午後 3時 20分 傷害が発生したところの種類 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他(診療所付属施設) XX 都道府市区町村 都 区 町村	
生後1年未満で病死した場合の追加事項 出生時体重 単胎・多胎の別 グラム 1単胎 2多胎(子) 妊婦週数 週 経産・分娩時における母体の病歴又は既往 母の生年月日 平成 年 月 日 前回までの妊産の結果 出生児 人 胎 産児 胎 1無 2有 3不詳 昭和 年 月 日 (妊産満22週以後に限る)	
その他特に付言すべきことがら 心肺停止状態で病院に搬送され、一旦心拍が再開し、治療を受けていたが死亡した。	

問題文

64歳 男性。X年5月5日、統合失調症にて診療所付属施設に入所していた。午後3時20分頃、柏餅を食べている際に窒息し、心肺停止となった。居あわせた職員により、咽頭内の異物除去、心肺蘇生がなされ、救急要請された。救急隊により心肺蘇生術が継続され、救急入院となった。

既往歴:30歳より統合失調症。

初診時所見:二次救命処置により心拍再開し、ICU管理となる。集中治療管理を行ったが、5月15日、死亡した。

解説

異物誤嚥による窒息死で、外因死の症例です。長年煩ってきた「統合失調症」をI欄(イ)行に記入するのは適切ではありません。ここでは、原死選択で「統合失調症」、その種類が疾病となってしまいます。II欄に記載するのが適切です。また、死亡の原因として「6窒息」を選択すれば、外因死の追加事項が必要です。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	異物誤嚥による窒息	10日
	(イ) (ア)の原因	統合失調症	約30年
	(ウ) (イ)の原因		
	(エ) (ウ)の原因		
手	① 2有	部位及び主要所見	手商年月日 平成 年 月 日
	② 2有	主要所見	昭和 年 月 日
死因の種類	1 病死及び自然死	不慮の外因死 (2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害)	
	6 窒息	その他の及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因)	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他	都道府県 市区町村
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
	1 無 2 有	1 単胎 2 多胎 (子中胎)	前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 (妊娠週22週以後に限る)

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	咽頭異物による窒息	10日
	(イ) (ア)の原因	統合失調症	約30年
	(ウ) (イ)の原因		
	(エ) (ウ)の原因		
手	① 2有	部位及び主要所見	手商年月日 平成 年 月 日
	② 2有	主要所見	昭和 年 月 日
死因の種類	1 病死及び自然死	不慮の外因死 (2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害)	
	6 窒息	その他の及び不詳の外因死 (9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因)	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X 年 5 月 5 日 午後 3 時 20 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他	都道府県 市区町村
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
	1 無 2 有	1 単胎 2 多胎 (子中胎)	前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 (妊娠週22週以後に限る)

柏餅を誤嚥し、窒息したもの。

正解

(14)	死亡の原因 ◆1欄は、最も死亡に至る原因の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください。 ◆2欄では、最も死亡に至る原因を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆3欄の欄前名の記載は各欄につきしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りの医学的因果関係の順番で書いてください。	施設の名稱	(ア) 直接死因	蘇生後脳症(または低酸素脳症)	約10日	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)
		(イ) の原因	窒息	約10日		
		(ウ) (イ) の原因	咽頭異物	約10日		
		(エ) (ウ) の原因				
		II	真原因は死因に該当しないが2欄の欄前名に記載すべき死因	統合失調症	約30年	
(15)	1 病死及び自然死 不慮の死因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の死因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の死因 12 不詳の死	1 病死及び自然死	2 窒息	3 転倒・転落	4 溺水	5 煙、火災及び火傷による傷害
		6 窒息	7 中毒	8 その他	9 自殺	10 他殺
(16)	傷者が発生したとき 傷者が発生した場所の種別 1 住居 2 工場及び建設現場 3 道路 4 その他 5 診療所付属施設 手段及び状況 柏餅を誤嚥し、窒息したものを。	傷者が発生したとき 平成 昭和 X 年 5 月 5 日 午 午後 3 時 20 分	傷者が発生したとき 頃	都道府市区町村 XX 区		
(17)	出生時体重 グラム 1 無 2 有	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 () 胎の生年月日 平成 昭和 年 月 日	妊娠週数 週 前同までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 人 (妊娠週22週以後に限る)			
(18)	その他特に対応すべきことから 心肺停止状態で病院に搬送され、一旦心拍が再開し、治療を受けていたが死亡した。					

正解

83歳 女性 X年9月3日、腹痛、嘔吐、ショック状態で緊急入院となる。既往歴として高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病。初診時所見：腹膜炎のため、緊急開腹術施行、非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の診断。循環動態安定せずICU管理となる。集中治療管理を行うも以下のような種々の合併症を併発し、死亡する。
 9月3日-9日：腹部術創の管理(OAM)中に緑膿菌感染症
 9月4日以降腎不全に対し、持続血液透析濾過開始。
 9月17日：急性呼吸促迫症候群改善せず、気管切開術
 9月24日：ICU退出するが、術創の感染対策、経腸栄養管理、意識レベルⅡ群にて気道管理、透析療法等を継続。
 9月30日：突然の心肺停止、蘇生に反応せず死亡。
 死亡後CT検査所見：冠動脈石灰化以外に突然死を説明できる所見なし。

死亡の原因	(ア) 直接死因	急性冠動脈症候群	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
	Ⅱ	直接には死因に關連しないが1層の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	細菌性腹膜炎	
手術	1無	部位及び主要所見 非閉塞性腸間膜虚血症を認め、オープンアブドーメン管理とする	手術年月日	X年9月3日 昭和
	2有	主要所見		
死因の種類	③ 死及び自然死			
	④ 不慮の外因死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

死亡の原因	(ア) 直接死因	多臓器不全	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約24日
	(イ) (ア)の原因	細菌性腹膜炎		約24日
	(ウ) (イ)の原因	虚血性腸炎	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約27日
	(エ) (ウ)の原因			
	Ⅱ	直接には死因に關連しないが1層の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		
手術	1無	部位及び主要所見 非閉塞性腸間膜虚血症を認め、オープンアブドーメン管理とする	手術年月日	X年9月3日 昭和
	2有	主要所見		
死因の種類	③ 死及び自然死			
	④ 不慮の外因死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

問題文

83歳 女性 X年9月3日、腹痛、嘔吐、ショック状態で緊急入院となる。既往歴として高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病。
 初診時所見：腹膜炎のため、緊急開腹術施行、非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の診断。循環動態安定せずICU管理となる。
 集中治療管理を行うも以下のような種々の合併症を併発し、死亡する。
 9月3日-9日：腹部術創の管理(OAM)中に緑膿菌感染症
 9月4日以降腎不全に対し、持続血液透析濾過開始。
 9月17日：急性呼吸促進症候群改善せず、気管切開術
 9月24日：ICU退出するが、術創の感染対策、経腸栄養管理、意識レベルⅡ群にて気道管理、透析療法等を継続。
 9月30日：突然の心肺停止、蘇生に反応せず死亡。
 死亡後CT検査所見：冠動脈石灰化以外に突然死を説明できる所見なし。

解説

非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)の術後、感染対策管理に難渋し、多臓器不全を合併。突然の心停止が、死後CTでも明確にできない症例です。冠動脈石灰化を根拠に「急性冠動脈症候群」としていますが、不整脈も否定できません。これのみでは原死選択が循環器系疾患での死亡となります。直接の死因は不詳でも、心停止を感染症、敗血症、および多臓器不全に至る一連の流れとするのが合理的です。したがって、原死選択にその原因である虚血性腸炎または非閉塞性腸間膜虚血症が選択できるようにするのが適切です。

選択肢

1	死亡の原因	(ア) 直接死因	急性冠動脈症候群	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2時間
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
(14)	手術	部位及び主要所見	非閉塞性腸間膜虚血症を認め、オープンアブドメン管理とする	手術年月日	X年9月3日
		手術	1無 2有		
(15)	死因の種類	死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
		外因死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		

2	死亡の原因	(ア) 直接死因	多臓器不全	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約24日
		(イ) (ア)の原因	細菌性腹膜炎		約24日
		(ウ) (イ)の原因	虚血性腸炎		約27日
		(エ) (ウ)の原因			
(14)	手術	部位及び主要所見	非閉塞性腸間膜虚血症を認め、オープンアブドメン管理とする	手術年月日	X年9月3日
		手術	1無 2有		
(15)	死因の種類	死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
		外因死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他		

正解

44歳 男性。X年8月1日、午後3時頃、工事作業の現場にて3階部分より転落し、頭部を強打する。
 初診時所見：呼吸循環安定するも、意識レベルGCSE1V2M2、瞳孔不同を認める。頭部CT検査にて脳挫傷、硬膜下血腫の診断。
 開頭血腫除去術および外減圧後、ICUにて脳圧亢進症状に対する管理を行う。
 受傷後10日を経て意識レベルの改善悪く、疼痛刺激に除皮質硬直を示した。経腸栄養、気管切開で療養病床管理となった。
 受傷後30日目頃より、誤嚥性肺炎を合併し、44日目に死亡した。

死亡の原因	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約14日
	(イ) (ア)の原因	脳挫傷		44日
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
◆1療の傷病名との記載は各欄一つにしなさい	手続	1無 ② 脳挫傷および硬膜下血腫	手続年月日	X年8月1日 昭和
	解剖	①無 2有	主要所見	
(15) 死因の種類	1病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 ② 2交通事故 ③ 転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X年 8月 1日 午後 3時 頃	傷害が発生したところ	〇△ 都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	手段及び状況	工事現場の3階部分から転落したという。
(17) 生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	妊娠週数
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	1無 2有	1単胎 2多胎(子中第 子)	満 週
(18) その他特に付言すべきことがら	母の生年月日	平成 年 月 日	前回までの妊娠の結果	出生児 人胎 死産児 (妊娠週22週以後に限る)
	その他	昭和 年 月 日	重度頭部外傷後の合併症として肺炎で死亡したものの	

死亡の原因	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約14日
	(イ) (ア)の原因	脳挫傷		44日
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
◆1療の傷病名との記載は各欄一つにしなさい	手続	1無 ② 脳挫傷および硬膜下血腫	手続年月日	X年8月1日 昭和
	解剖	①無 2有	主要所見	
(15) 死因の種類	1病死及び自然死			
	外因死	不慮の外因死 ② 2交通事故 ③ 転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午後 時 分	傷害が発生したところ	〇△ 都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	手段及び状況	
(17) 生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	妊娠週数
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	1無 2有	1単胎 2多胎(子中第 子)	満 週
(18) その他特に付言すべきことがら	母の生年月日	平成 年 月 日	前回までの妊娠の結果	出生児 人胎 死産児 (妊娠週22週以後に限る)
	その他	昭和 年 月 日		

問題文

44歳 男性。X年8月1日、午後3時頃、工作業の現場にて3階部分より転落し、頭部を強打する。

初診時所見：呼吸循環安定するも、意識レベルGCSE1V2M2、瞳孔不同を認める。頭部CT検査にて脳挫傷、硬膜下血腫の診断。開頭血腫除去術および外減圧後、ICUにて脳圧亢進症状に対する管理を行う。受傷後10日を経ても意識レベルの改善悪く、疼痛刺激に除皮質硬直を示した。経腸栄養、気管切開で療養病床管理となった。受傷後30日目頃より、誤嚥性肺炎を合併し、44日目に死亡した。

解説

ヘルニア徴候を示す重度頭部外傷後に意識レベルの改善が悪く(植物状態)、誤嚥性肺炎で死亡した症例です。I欄に「誤嚥性肺炎」のみを記入すると原死が疾病となりますが、本症例は頭部外傷後に生じた誤嚥性肺炎で因果関係があると思われます。I欄に「脳挫傷、硬膜下血腫」を記載し、外因の「3転倒・転落」を選択するのが適切です。

選択肢

正解

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約14日
	(イ) (ア)の原因	脳挫傷		44日
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
死亡の経過	Ⅰ			
	Ⅱ			
手術	1 無	① 脳挫傷および硬膜下血腫	手術年月日	X年8月1日
解剖	① 有	2 有		
死因の種類	1 病死及び自然死	2 交通事故	3 転倒・転落	4 溺水
	5 煙、火災及び火傷による傷害	6 窒息	7 中毒	8 その他
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 X年8月1日 午後 午後 3時頃	傷害が発生したところ	〇△
	傷害が発生したところの種類	1 住居	2 工場及び建設現場	3 道路
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
	グラム	1 単胎	2 多胎	3 中胎
その他特に付すべきことがら	母の生年月日	平成 昭和 年 月 日	前回までの妊娠の結果	出生児 死産児
	1 無	2 有	3 不詳	4 その他

(14) (15) (16) (17) (18)

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	誤嚥性肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約14日
	(イ) (ア)の原因	脳挫傷		44日
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
死亡の経過	Ⅰ			
	Ⅱ			
手術	1 無	① 脳挫傷および硬膜下血腫	手術年月日	X年8月1日
解剖	① 有	2 有		
死因の種類	1 病死及び自然死	2 交通事故	3 転倒・転落	4 溺水
	5 煙、火災及び火傷による傷害	6 窒息	7 中毒	8 その他
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成 昭和 年 月 日 午前 午後 時 分	傷害が発生したところ	〇△
	傷害が発生したところの種類	1 住居	2 工場及び建設現場	3 道路
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数	
	グラム	1 単胎	2 多胎	3 中胎
その他特に付すべきことがら	母の生年月日	平成 昭和 年 月 日	前回までの妊娠の結果	出生児 死産児
	1 無	2 有	3 不詳	4 その他

(14) (15) (16) (17) (18)

Q15.

生後3ヶ月男児。朝、ミルク哺乳後に入眠したため、大人用ベッドにあおむけに寝かせた。3時間後に母親が様子を見に行くと、あおむけで顔色が悪く呼吸をしていないことに気付いた。すぐに119番に連絡し、救急隊員の指導で心肺蘇生を1時間行ったが、反応が見られず、死亡確認となった。
 病院に搬送後、心肺蘇生を1時間行ったが、反応が見られず、死亡確認となった。
 在胎38週、体重2500g、普通分娩にて出生。
 妊娠分娩経過に異常なく、出生後も先天性疾患などは指摘されていない。
 発達発育は順調で、必要な予防接種等も実施されていた。死亡前に感冒様症状などは認めなかった。家族歴には特記すべきことなし。
 外表に出血斑、外傷、皮膚損傷はなく、眼底出血は認めなかった。
 死亡状況からは事件、事故ではないと判断された。
 家族から剖検の了解が得られなかったため、病理解剖は実施しなかった。
 死後画像検査では死亡原因となり得るような所見は認めなかった。
 死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	原因不明の突然死	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	Ⅰ	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日
	Ⅱ	主要所見		
手術	① 2有			
	② 2有			
死因の種類	1 病死及び自然死	不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他		
	② 不詳の死	その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆法医又は鑑定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		
出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	妊婦週数	週
	1無 2有	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	前回までの妊婦の結果	出生児 人胎 (妊婦週22週以後に限る)
生後1年未満で病死した場合の追加事項	経緯・分岐時にける母体の病歴又は異状	母の生年月日	前回までの妊婦の結果	
その他特記すべきことから	自分で様子がおかしいことに気づき、病院に搬送され治療を受けるも、蘇生処置に反応なく死亡が確認された。			

死亡の原因	(ア) 直接死因	乳幼児突然死症候群(の疑い)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください。	Ⅰ	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日
	Ⅱ	主要所見		
手術	① 2有			
	② 2有			
死因の種類	① 病死及び自然死	不慮の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他		
	② 不詳の死	その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆法医又は鑑定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		
出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	妊婦週数	週
	1無 2有	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	前回までの妊婦の結果	出生児 人胎 (妊婦週22週以後に限る)
生後1年未満で病死した場合の追加事項	経緯・分岐時にける母体の病歴又は異状	母の生年月日	前回までの妊婦の結果	
その他特記すべきことから	自分で様子がおかしいことに気づき、病院に搬送され治療を受けるも、蘇生処置に反応なく死亡が確認された。			

問題文

生後3ヶ月男児。朝、ミルク哺乳後に入眠したため、大人用ベッドにあおむけに寝かせた。3時間後に母親が様子を見に行くと、あおむけで顔色が悪く呼吸をしていないことに気付いた。すぐに119番に連絡し、救急隊員の指導で救急車到着まで人工呼吸を行った。

病院に搬送後、心肺蘇生を1時間行ったが、反応が見られず、死亡確認となった。

在胎38週、体重2500g、普通分娩にて出生。

妊娠分娩経過に異常なく、出生後も先天性疾患などは指摘されていない。

発達発育は順調で、必要な予防接種等も実施されていた。死亡前に感冒様症状などは認めなかった。家族歴には特記すべきことなし。

外表に出血斑、外傷、皮膚損傷はなく、眼底出血は認めなかった。

死亡状況からは事件、事故ではないと判断された。

家族から剖検の了解が得られなかったため、病理解剖は実施しなかった。

死後画像検査では死亡原因となり得るような所見は認めなかった。

死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

乳幼児突然死症候群(SIDS)は「それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群」と定義されており、診断は剖検および死亡状況調査に基づいて行う必要があります。法医解剖(司法、行政、承諾、新法)がなされなかった場合は、家族の同意を得て病理解剖により診断することとなります。

何らかの理由で解剖がなされない場合および死亡状況調査が実施されない場合は、SIDSの診断は不可能となります。SIDS以外に乳児に突然の死をもたらす疾患および窒息や虐待などの外因死との鑑別も必要ですので、解剖がなされない場合には、死亡状況からSIDSが強く疑われる場合でも、死亡診断書(死体検案書)の死因は原因不明、死因分類は「12.不詳」が適切です。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	原因不明の突然死	不詳
	(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください
	(エ) (ウ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください 1時、15分、30分、1日、5日間、20日
◆1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1歳では、最も死亡に影響を及ぼした原因を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1歳の病名名の記載は各欄一つにしなさい ただし、欄が不足する場合は(3)欄に死因を医学的因果関係の観点で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見
	解剖	① 2有	主要所見
死因の種類	1 病死及び自然死	不詳の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害	
	6 窒息 7 中毒 8 その他	9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	市区町村
◆伝染又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		
	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
生後1年未満で病死した場合は追加事項	グラム	1 単胎 2 多胎 ()	子中第 () 子
	1 無 2 有 ()	3 不詳	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
◆伝染又は確定情報の場合でも書いてください	前回の妊娠の結果	出生児 胎数 死産児 胎数 (妊娠週22週以後に限る)	
	その欄特に行うべきことから	自宅で様子がおかしいことに気づき、病院に搬送され治療を受けるも、蘇生処置に反応なく死亡が確認された。	

正解

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	乳幼児突然死症候群(の疑い)	不詳
	(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください
	(エ) (ウ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください 1時、15分、30分、1日、5日間、20日
◆1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1歳では、最も死亡に影響を及ぼした原因を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1歳の病名名の記載は各欄一つにしなさい ただし、欄が不足する場合は(3)欄に死因を医学的因果関係の観点で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見
	解剖	① 2有	主要所見
死因の種類	1 病死及び自然死	不詳の外因死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害	
	6 窒息 7 中毒 8 その他	9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	市区町村
◆伝染又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		
	出生時体重	単胎・多胎の別	妊娠週数
生後1年未満で病死した場合は追加事項	グラム	1 単胎 2 多胎 ()	子中第 () 子
	1 無 2 有 ()	3 不詳	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
◆伝染又は確定情報の場合でも書いてください	前回の妊娠の結果	出生児 胎数 死産児 胎数 (妊娠週22週以後に限る)	
	その欄特に行うべきことから		